



学校司書だより

札幌市立新陵中学校
学校司書 林 真知子
第2号 2020. 7. 3

あっという間に一年の半が過ぎてしまいました。今年度はコロナによる休校措置で図書館もなかなか開館できない状況が続きましたが、これから夏休みの特別貸し出しが始まります。(7/20～7/31の予定) 夏休みも短くなりましたが、普段なかなか読めない本を読んで読書にいいそしんでみませんか。

★夏休みにふさわしい本を紹介します★(図書館にある本です)
～少し長めの本にも挑戦してみましょう～(一人3冊まで借りられます)

○有川浩『明日の子供たち』(幻冬舎)

児童養護施設を舞台に、ここで働く職員と子どもたちとの出会いを通して繰り広げられるドラマチックな長編物語。

○小川糸『リボン』(ポプラ社)

2019年5月2日、14歳と17歳の少女2人は二人きりで“アメリカを見る”旅に出た。美しい風景と愛すべき人々、そして、「あの日の自分」に出逢える。

○プレイディみかこ『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』(新潮社)

家庭環境や性別の違い、国籍の違う子どもたちが過ごす毎日は事件の連続。それでも、それぞれが子どもなりのやり方でそれを乗り越えていく。

○重松清『きみの友だち』(新潮社)

病気やけがなどそれぞれの困難を抱えている子どもたちが、出会いながら、「友だち」という本当の意味をさがす連作長編作品。

○櫻井とりお『虹いろ図書館のへびおとこ』(河出書房新社)

○マイケル・ボーンスタイン他『4歳の僕はこうしてアウシュヴィッツから生還した』

(NHK出版) 著者の一人のマイケルがわずか4歳でアウシュヴィッツに収容され生還される。家族の協力をもとに当時の記憶を取り戻していく。

○小前亮『星の旅人—伊能忠敬と伝説の怪魚』(小峰書店)

没後200年を迎えた伊能忠敬の足跡を少年の視点で描く歴史的読み物。

○塩田武士『騙し絵の牙』(KADOKAWA)

物語の主人公は大手出版社の雑誌編集長。上司から廃刊を言い渡される。

○宮下奈都『羊と鋼の森』(文藝春秋) ○虻川枕『パドルの子』(ポプラ社)

○村上春樹『騎士団長殺し』(上・下)(新潮社)

○『はじめての文学シリーズ』(宮本輝、宮部みゆき、小川洋子他)(文藝春秋) ○川村元気『世界から猫が消えたなら』(小学館文庫) ○星新一『ボ

ッコちゃん』(新潮文庫) ○梨木香歩『西の魔女が死んだ』(新潮文庫) ○三浦しをん『風が強く吹いている』(新潮文庫)

*** 新着本が入っています。(図書館前の掲示をご覧ください。)**



～読書の良さって？～

読書の良さって为什么呢。いや、「本なんて興味がない」「忙しくて読む時間がない」「スマホやSNSで簡単に見られる」という声も聞こえてきそうです。そうですね。ちょっと理解できる気もしますが……。以下をご参考に。

……こんな考え方があるのか、こんなひたむきな愛があるのか、こんなつらい別れがあるのかと、一冊の本に気付かされる。読む以前は知らなかった世界ばかりだ。そうした世界を知ると、自分だけでは持ち得なかった複数の「視線」が生まれる。そして自らを客観的に眺められるようになり、独り善がりから抜け出せる。……自分が「知らない」ことが分かると、今度は「知りたい」と思うようになる。そういう気持ちは、これから勉強していく上でも大きなモチベーションになる。

(永田和宏『知の体力』新潮新書より)

そして、本屋さんに立ち寄ると、つい最近、出版された人気の本がどんどん映画化、ドラマ化されていることに驚かされます。映像はとつきやすく、分かりやすいのですが、活字離れになることが懸念されます。

一度、実際に本を手にとって読んでほしいなあと思います。以下は映画化、ドラマ化された本です。(○：図書館にあり △：近日中に入る予定)

○新海誠『君の名は』 △『天気の子』(角川文庫) ○塩田武士『騙し絵の牙』(KADOKAWA)
△河野裕『いなくなれ、群青』(新潮文庫) △有川浩『旅猫レポート』(講談社文庫)
△細田守『未来のミライ』 △重松清『せんせい』(新潮文庫) 『エイジ』(新潮文庫)
△住野よる『君の隣を食いたい』(双葉社) ○宮下奈都『羊と鋼の森』(文藝春秋)
○恩田陸『蜜蜂と遠雷』(幻冬舎) △続編『祝祭と予感』
○今村昌弘『屍人荘の殺人』(東京創元社) ○森絵都『みかづき』(集英社)
△川村俊和『コーヒーが冷めないうちに』(サンマーク出版)

募集

みなさんの希望の本を募ります。→「リクエストボックス」に

みえない星

金子 みすゞ

空のおくには何がある
空のおくには星がある
星のおくには何がある。
星のおくにも星がある
眼には見えない星がある

みえない星はなんの星。
お供の多い王様の、
ひとりの好きなたましいと
みんなに見られた踊り子の
かくれていたいたましいと。

(永遠の詩『金子みすゞ』詩集より)

